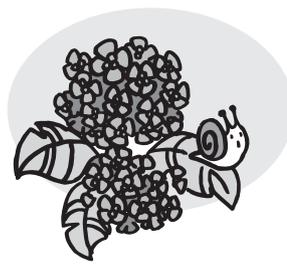


### 横地分類(改訂大島分類)

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、  
以下のように表記する。  
例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

〈知能レベル〉						
E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可
〈移動機能レベル〉						
戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可	

〈特記事項〉  
C:有意な眼瞼運動なし  
B:盲  
D:難聴  
U:両上肢機能全廃



思えるかも重要です。そうならば、人生の幕を引いてもいいでしょう。重症心身障害成人の死の迎え方を考えるのも施設の役目です。今、私たちはこのように考えています。

### こだまの 日常生活紹介 平塚 信恵

こだまは、入所者15名横地分類A1が12名、A2が1名、B1が1名、E1が1名が生活しているゾーンです。Aさん(横地分類A1)は日常の中で椅子のきしむ音などのごく小さな生活音を拾い笑うことがあります。しかし、声を出して笑った後、その音の行方に集中せず、気持ちが残らないという印象があります。

「活動を始めますね」と声をかけた後、少しの間じっと動きをとめ、音も動きもない静かな空間をつくり出します。Aさんと職員の間にはピンと張った空気が流れます。その後、近くにある器に豆を一粒ずつゆつくりと落としていきます。「ぼつ：ぼつ：」その音はAさんがいつも楽しそうに振り鳴らしているマラカスの音より、ずっと小さく繊細な音です。Aさんは目をくつと大きく開きました。マットの上で動かしていた手がぴたりと止まっています。Aさんが静かな空間を感じとっているからこそ、とても小さなその音が輪郭のはっきりとしたインパクトのある音と



した。そこで、活動は興味がひかれる音に対し、じわりじわりと気持ちがあくような時間にしたいたいと思いました。

して届いているようです。落とす豆の量を『ばらばらばら』と徐々に増やしていくと、Aさんは音のする方向を探るように顎を上げました。耳に入ってくる音を、より意識して聞こうとしている様子でした。音に『ばらばらばらばら』という一定の流れができ、Aさんがその流れを感じとっているところで、豆を落とすのを止めてみます。Aさんをみて息を凝らします。Aさんはじっと体の動きを止めたまま、目だけをゆつくりと動かし、感じていた音が不意になくなり、ん？と思ったようにみえました。そして静寂の中、次に何が起こるのを待っているようでした。職員はその様子を感じ、今度はたくさんの豆を二気に落とします。『ざざざざあー』と大きく賑やかな音がしました。その音が鳴り終わると、表情がふわっとゆるみました。

単に音量が大きいこと、また単に今鳴っている音の心地よさだけでは、たとえ音を捉えたとしても、Aさんの気持ちが動くことはありません。音も動きもない静かな空間、そこから豆の音が徐々にあるいは極端に変化していくこと、この過程を感じとっていくことでよい活動につながります。

### はるか 日常生活紹介 宮島 依里

はるかは入所者15名(横地分類A1が7名、A4が2名、B1が1名、B2が1名、B3が1名、B4が1名、B5が1名、B6が1名)のゾーンです。Aさん(横地分類A1)は職員が小さな声で話していると、体の動きを止め、集中して聞こうとしている様子があります。活動は『たるまさんが』という絵本を使ってことばのリズムを楽しめるように提供しました。「だるまさんが」という短いことばの後に「どてつ・びろん」など、だるまさんの動きを擬音で表現している絵本です。

